

学校だより

1月 NO.9

<http://www.funakoshi-e.educity.hiroshima.jp/>

広島市立船越小学校 平田健三

あけまして おめでとうございます

旧年中は保護者の皆様、地域の皆様に変にお世話になりました。教職員一同心より感謝致しております。引き続き本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

花を見て美しいと思い
 風に吹かれて寂しさを感じ
 空を見上げて遠く誘われ
 人に出逢って喜び
 人と別れて振り返る
 誰にも気がねなく
 自分のことも忘れ
 いつも心そのままにいたい

知人（詩人）からの年賀状に添えてあった詩です。妙に心に響くものがありました。教育改革、学校改革という言葉が飛び交い、何かしら落ち着かない感のある教育現場です。しかし、そんなときだからこそ、人としての感性を大事にしたいと思うのです。子どもの心に寄り添いながら、ぬく

もりのある教育を心がけたいと思います。そして、日本人が受け継いできた美德である勤勉、親切、正直、おもいやりの心をしっかり育てていきたいと思ひます。

変えるべきところは変える柔軟さと勇気を

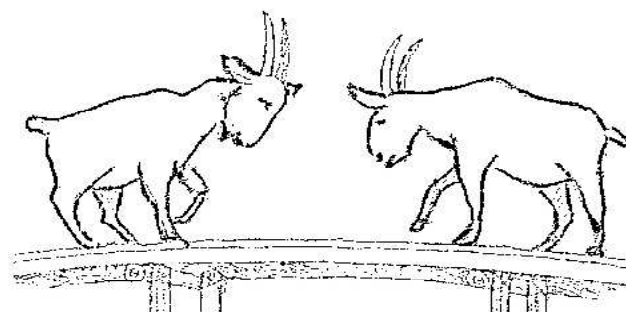
ある有名食品会社の社長は成功しない人の3条件の第一番目に「固定観念を捨てきれない」を挙げています。

ノーベル物理学賞を受賞した江崎玲於奈氏は、ノーベル賞をとるために、してはいけない五箇条の第一番目に「今までの行き掛かりにとらわれてはいけない。しがらみという呪縛を解かない限り、思いきった創造性の発揮などは望めない」と断言しています。

この二人の指摘は、単に成功うんぬん、ノーベル賞うんぬんの問題ではありません。

これからの変化の激しい社会を生き抜いていく子どもたちの教育に携わる私たちもしっかり受けとめたい言葉です。改革という言葉に踊らされるのではなく、今の社会の変化、制度・環境の変化に敏感に対応し、常に子どもにとって最善と思われる教育を果敢に求めていかなければなりません。そのような意味のある改革を断行することには臆病になってはならない、と自戒しています。

やさしさとは共に生きる心



「二匹のヤギが、川にかかった狭い橋の上で出会った。彼らはどうするだろうか。橋は狭すぎて、もどることもお互いに橋をすりぬけていくこともできない。それぞれ自分が通ろうとむりやり進んでいくと、ぶつかって両方とも川に落ち、おぼれてしまうだろう。彼らは

どうするだろうか。

ただ一つの方法は、一匹が橋の上に伏せて相手に自分の上を踏んで渡ってもう一方のことだ。こうすれば二匹とも無事に橋を渡ることができる。

人間同士の間でも、このようにしなければならぬことが、しばしばある。他人と争って勝つよりも、自分の上を他人に踏み越えさせるべきときがあるものだ。「マルチン・ルター『卓上語録』より
(教育サークル『ヒューマンネットワーク』に紹介)」

このような危機的な状況ではないにしろ似たような状況は、人間社会の中でいくらかでも起こり得ることです。子どもたちの学校生活の中でもしばしば生まれまします。こういう状況を変えていくためのキーワードは、

「共に生きる心」

ではないでしょうか。

「自分さえ良ければ」ではなく、「相手の気持ちはどうか」「周りの人は幸せか」と、他者を思いやる心こそが「共に生きる心」です。この心が十分育っていないばかりに起こる痛ましい事件の数々。今こそ大事にしたい心だと思ひつのです。



気になる話 酔っ払い言葉

「内外教育」より抜粋
東京学芸大学教授児島邦宏

「先生、ごみ」
「先生は、ごみなんかではありません。人間です。それを言うのだったら『先生、このゴミはどこに捨てたらいいのでしょうか』でしょう?」
「先生、トイレ」
「おや、また……。先生はトイレではありません。それを言うのだったら『先生、トイレに行きたくなつたのですが、行ってもいいでしょうか』でしょう?」
「先生、気持ち悪い……」

「まあ、失礼ね。そりゃ、先生は、あなたのお母さんほどではないかもしれないけれど、『気持ち悪い』とはあんまりね。それを言うんだつたら『先生、気分が優れないんですけど、保健室に行ってもいいでしょうか』というのでしょうか?」

最近、教室の中にも、こんな「酔っ払い言葉」が侵入してきた。言語環境は日に日に悪くなるばかりである。

「酔っ払い言葉」とは、こうである。人間酔いが深まると、修飾語、形容詞、副詞、接続詞そして助詞と次第にはげ落ち、むき出しの「オイ、酒!」「オイ、冷やっこ!」となっていく。言葉が暴走し、名詞と名詞が衝突する……略

言葉の技能(コミュニケーションスキル)が問題になっている。あいさつをしつかり、敬語をどうするか、等々をめぐってである。だが、事態はもつと深刻である。日本語としての語幹それ自体が腐りかけている。土台がおかしい。

「先生、きれい」

「ありがとう!」

「いや、先生ごめんなさい。『先生、このバラの花は、とてもきれいですね』と言いたかったです」

「……」